

新十津川消防団 意見交換会

【団員のなり手不足をどうする】

各分団の現状と

これからの課題は

**小玉** 日頃より、団員のなり手不足は深刻だと感じている。

災害はいつ起きるか分からない。町としての大きな課題だと思ってる。そこで、それぞれの分団の様子や活動での悩みごと、また、今後の課題についてお聞きしたい。



小玉後援会連合会長

**笹井** 現在第一分団は、2名欠員となっている。団員同士の懇親会を行い、数年前から見ると、出席者が多くなっている。コミュニケーションをとることが大事だと感じる。現在、役場と農協の若い職員さんに入ってもらっているが、班長以上



第一分団 笹井分団長

は年配の団員が多くなっている。いざ火災で出勤した時にホースを引く張るのも大変。何人かに声をかけて勧誘しているが、なかなか団員になる人がいない。

**岩井** 第二分団は、地元企業の協力を得て、団員を出してもらっている。地域の繋がりのために、数年ごとに入れ替わるといふことをやっている。



第二分団 岩井分団長

第二分団の課題は、中堅の団員が、練習が大変なので、幹部になる前に辞めていくこと。

日頃より懇親会等でコミュニケーションをとるようにしているが、今の時代に合ったコミュニケーションのとり方もみんな考えていかなければならない。

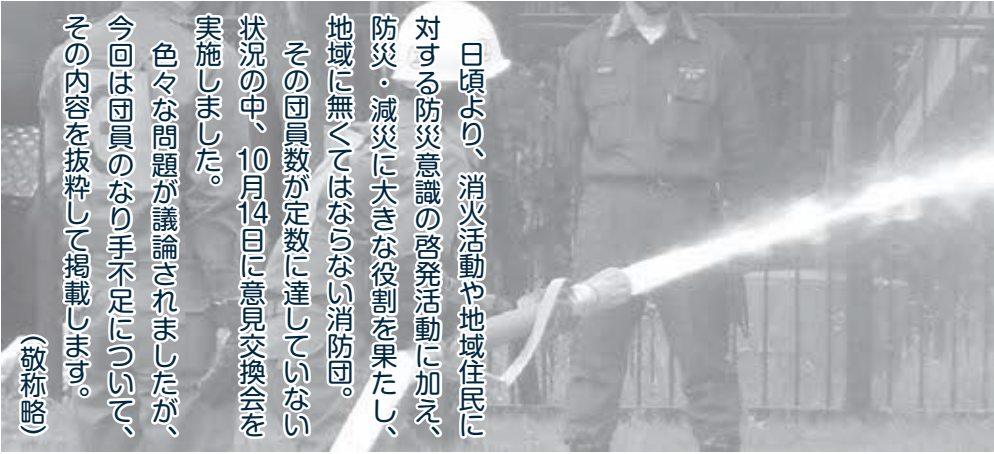
**高橋** 第三分団は2名欠員。辞められた先輩団員の補充が出来ていない状況。サラリーマンが多いので、練習や緊急時に出勤できない人の比率が高い。



第三分団 高橋分団長

他の自治体では、従業員を団員として協力してくれた企業や団体を、表彰しているところもある。新十津川町でもやってくれば、協力してくれる企業や団体が少しでも増えるのではと思う。

**田中** 第四分団は欠員なし。今のところ一本釣りで補充しているが、それも長くは続かないと思う。課題は、一週間から二週間の間、



日頃より、消火活動や地域住民に対する防災意識の啓発活動に加え、防災・減災に大きな役割を果たし、地域に無くてはならない消防団。その団員数が定数に達していない状況の中、10月14日に意見交換会を実施しました。

色々な問題が議論されましたが、今回は団員のなり手不足について、その内容を抜粋して掲載します。

(敬称略)